

## 評価調書及び評価内訳書の資産評価額の計上ミスについて

### 1. 概要

弊社の評価調書及び評価内訳書の作成に際しては、これまでも資産評価委員会において定めていただいた評価要領（案）に基づき、再三チェックをして資産評価額の算出に努めてまいりました。

しかし、平成 18 年 2 月 16 日に、仕掛道路資産の土地には、本来、土地代と補償費を計上すべきところを、補償費約 174 億円を計上していなかったことが判明するという、誠に遺憾で重大な事態が発生いたしました。

そこで、直ちに「開始 B / S 緊急チェック本部（本部長：経理部担当常務取締役）」を設置し、全社的に資産データの厳正な再チェックを行い、正確な資産評価額を確定することといたしました。

その結果、仕掛道路資産の土地以外にも、下表のとおり 2 月 17 日開催予定であった資産評価委員会直前の資産評価額と最終資産評価額（案）の差額に相当する計上ミスが判明しました。

① 弊社承継資産にかかるミス

(金額単位：億円)

資産区分	2月17日直前の資産評価額	最終資産評価額(案)	差額	主な増減理由
仕掛道路資産（償却資産）	874	899	25	日本海東北自動車道の工事費の一部未計上
料金徴収施設及び料金所建物等の道路資産	943	926	-17	ETCの12,13年度取得分をデフレータ調整方式から標準的単金方式に修正
道路休憩施設等	787	792	5	ごみ仮置き場を機構資産としていたことによる未計上
支社等の庁舎、職員宿舎等	285	284	-1	資産価額を誤計上
宿舎跡地・代替地等土地	12	8	-4	隣接会社の土地を誤計上
その他の資産	2,140	2,129	-11	設備の修繕工事を一部資産化したことによる前払金の減
最終チェックによる増減額計			-3	
仕掛道路資産（非償却資産）	259	433	174	2月16日に判明した補償費の未計上
貸倒引当金	-8	-8	0	
資産合計	5,292	5,463	171	

② 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構承継資産(弊社分)にかかるミス

(金額単位：億円)

資産区分	2月17日直前の資産評価額	最終資産評価額(案)	差額	主な増減理由
道路資産				
償却資産	86,549	86,083	▲466	取得年度の入力ミス 受配電設備の単価入力ミス
非償却資産	18,989	19,030	41	土地面積の計算ミス
道路資産の建設仮勘定				
償却資産	2,661	2,717	56	工事の一部未計上
非償却資産	3,113	3,107	▲6	土地面積の計算ミス
固定資産合計	111,312	110,937	▲375	
流動資産の増減分			171	会社資産の増による未収金の増
資産増減分の総計			▲204	

## 2. 計上ミスの原因

弊社では、昨年末までに資産データを作成後、2月上旬に評価調書（案）を提出するまでの約2ヶ月の間、資産数量や資産算出基準との適合性等について再三確認をしておりました。

しかし、チェック体制が各資産担当部署の独立したラインに偏っていたため、部署間の意思の疎通が欠如し、また、組織的なチェック体制や確認方法が徹底されていない面もあったことから、組織単位と資産単位の二つのラインによるチェック内容の確認や、評価内訳書の各資産額と各資産担当部署が把握している資産額との突合などの最終確認も足りなかったことがミスが発生させた原因であります。

また、今回実施した厳正なチェックによって仕掛道路資産の土地以外にも新たなミスが判明しましたが、前回の補償費の計上ミスという事態の重大性に鑑み、1円の誤差でも計上ミスを訂正し、正確な資産評価額を確定するという意識のもとに、組織単位と資産単位の二つのラインによるチェック内容の確認や、評価内訳書の各資産額と各資産担当部署が把握している資産額との突合など、全社的に厳正なチェックを行った結果、最終的に資産評価額が確定できたものと考えております。

## 3. 今回の評価調書作成時の対応

「開始B/S緊急チェック本部」において、2月17日開催予定であった資産評価委員会直前に判明した計上ミスと最終チェックにより発見したミスを確認し、すべて訂正した上で評価調書および評価内訳書を作成いたしました。

また、チェック内容や計算過程について業務検査室による監査を受けた後、最終チェックした結果を3月3日に第五回本部会議で確認いたしました。その後、監査役による監査を経て、3月9日に評価調書及び評価内訳書を経営会議に付議し、提出させていただくこととしました。

平成 18 年 3 月 14 日  
中日本高速道路株式会社

## 会社成立時貸借対照表の資産評価額の計上漏れについて

### 1. 概要

日本道路公団から当社が承継する仕掛道路資産の土地について、本来、土地代と補償費を計上すべきところを、補償費を計上していなかったことが判明したものであります。

追加計上すべき価額は、下表のとおり約 59 億円です。

	誤った計上額	修正額	差 額
仕掛道路資産の 土地	約 216 億円	約 275 億円	約 59 億円

### 2. 計上ミスの原因

当社は、資産評価委員会において定めていただいた評価要領（案）に基づき、全社的に評価額の算出作業を行ってきたところ です。

仕掛道路資産の土地についても、他の資産と同様に昨年末までのデータの作成後、評価調書（案）を提出するまでの約 2 ヶ月の間、確認・修正をしてまいりました。

一方、12月26日～1月17日の公認会計士の確認業務とその後の全社的な再チェックにて資産額の計上ミスが発見され、この資産額の計上ミスについては、修正して評価調書を作成することとしました。

仕掛道路資産の土地についてもミスが発見されましたが、「用地担当部署」も、他部署と同様に修正データを作成し、下記のとおり修正データを評価調書に反映させることとしました。

- ① 月次決算処理の一時停止中（1月25日～2月1日）に、評価調書のデータである統合資産 DB の期首データの書き換えに着手
- ② 本来であれば土地代と補償費を別々にデータ入力すべきところが、当初登録していたデータが土地代と補償費を合算して土地代として統合資産 DB に入力していたため、これを分割して再入力
- ③ 統合資産 DB の機能的制約から、修正前のデータに補償費の項目がないレコードについては、補償費の追加修正が不可能と判明
- ④ やむを得ず、土地代のみを修正し、補償費は計上されないまま登録

そこで、「用地担当部署」では、正しい土地代と補償費のデータを別途作成して、評価調書を取りまとめる「資産班」に渡していたので、当該データにより評価調書が正しく作成されるものと思い込んでいました。

他方、「資産班」は、土地の取得に要した労務費などの間接費を算出し、直接費（土地代と補償費）に加算して資産価額を計上して評価調書を、下記のとおり作成しました。

- ⑤ 「用地担当部署」から受け取った直接費データから間接費を算出し、統合資産 DB に投入
- ⑤ 統合資産 DB に登録されている仕掛道路資産の土地データは、期首データの書き換え作業が行われていたことから、正しいデータに置き換わっていると思い込み、補償費が計上されていない直接費と間接費との合算額を仕掛道路資産の土地資産価額として評価調書を作成

さらに、最終的に評価調書に計上した金額と「用地担当部署」が集計した土地価額との確認を行わなかったことから、補償費分の計上漏れが発見できませんでした。

#### （結論）

以上を総合すると、計上ミスは次の二つの原因が重なったことにより発生したものです。

- （１）「用地担当部署」が「資産班」に評価調書作成用データを渡す際に、これが正しいデータであり、統合資産 DB のデータには補償費が計上されていない旨の確認を行わなかったこと
- （２）「資産班」は、時間的制約もあり評価調書を「用地担当部署」に差し戻しチェックをさせなかったこと

平成 18 年 3 月 14 日

西日本高速道路㈱

## 資産評価額における計上ミスについて

## 1. 概要

弊社の資産評価額の策定にあたり、これまで資産数量や資産算出基準等を再三にわたりチェックし資産額の算定に努めて参りましたが、今年 2 月 16 日に仕掛道路資産の土地に補償費が約 29 億円が計上されていないことが判明し重大な事態となりました。

直ちに資産額の総点検を緊急的に実施すべく「開始B/S 緊急チェック本部」を設置し、会社並びに機構の全承継資産を対象に、全社的なチェックを実施いたしました。

その結果、仕掛道路資産の土地以外にも下表の通り 2 月 17 日開催予定であった資産評価委員会直前の資産評価額に新たな計上ミスが判明いたしました。

## (1) 弊社承継資産

単位：億円

資産区分	前回	見直し	差額	内容
仕掛道路資産 (非償却資産)	36	65	29	前回の計上ミス
仕掛道路資産 (償却資産)	691	624	▲67	一部完成したトンネル工事を仕掛資産に誤計上 (▲70) 他の工事で計上漏れ (+3)
料金収受施設及び 料金所建物	757	751	▲6	ETC 設備の評価方法の修正 (▲20) 内訳書区分の管理事務所から繰入れ (+24) その他 (▲10)
管理事務所	36	12	▲24	内訳書区分の選定ミス (▲24)
その他鑑定をして いる資産等	14	7	▲7	プラント建物の評価方法の修正 (▲5) 等
その他の資産等	3,465	3,479	14	資産負債資本差額調整 (+16) ETC 負担金 (▲2) 等
合計	4,999	4,938	▲61	

## (2)日本高速道路保有・債務返済機構承継資産

単位：億円

資産区分	前回	見直し	差額	内容
道路資産 償却資産	80,219	79,935	▲284	受配電設備の評価額の入力ミス
非償却資産	22,325	22,474	149	内訳書区分の建設仮勘定からの繰入
建設仮勘定 償却資産	2,626	2,707	81	一部完成したトンネル工事の計上漏れ 他の工事で計上漏れ
非償却資産	1,975	1,841	▲134	内訳書区分の選定ミス
合計	107,145	106,957	▲188	

## 2. 計上ミスの原因

弊社では、これまでも再三にわたり資産数量や資産算出基準との適合性など確認作業を実施してまいりました。

しかしながら、従来のチェック体制は、各資産担当部署のラインに偏っていたために部署間での資産額の漏れや二重計上の相互確認が徹底されていない面があり、確認作業が不十分だったことが重大なミスが発生させた原因であります。

また、今回の緊急チェックでも新たな計上ミス等が判明いたし、重く受け止めておりますが、全社的に取り組みました組織単位と各資産担当部署での二重チェックや各資産担当部署が把握している資産額と各評価内訳書の資産額との確認が確実に実施された結果と考えております。

## 3. 今回の評価調書作成時の対応

今回の評価調書の作成にあたり、開始 B/S 緊急チェック本部の下、全社的に組織単位と資産担当部署での二重チェック体制を緊急に構築し、会社並びに機構の全承継資産について厳格なチェックをすすめ、新たに判明した計上ミスについては、すべて訂正いたしました。

また、評価調書及び評価内訳書を作成にあたっては、これを開始 B/S 緊急チェック本部長が確認いたしました。

以上